

変量 x, y の相関係数について考える.

(1) 変量 x, y の値の組

$$(x_1, y_1), (x_2, y_2), \dots, (x_{25}, y_{25})$$

をデータ Z とする. 図 1 は Z の散布図であり, Z から図 1 の点 A の表す値の組を除いた 24 個の値の組からなるデータを Z' とする. 図 2 は Z' の散布図である.

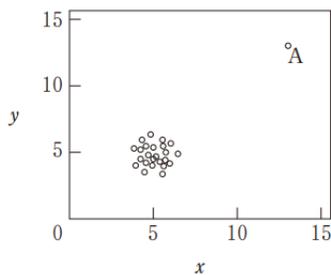


図 1 データ Z の散布図

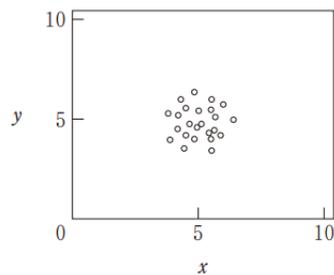


図 2 データ Z' の散布図

データ Z の x と y の相関係数を計算すると 0.8 となる. データ Z' の x と y の相関係数はおよそ である.

については, 最も適当なものを, 次の ①~⑤ のうちから一つ選べ.

- | | | | | | |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| ① -0.8 | ② -0.6 | ③ 0.0 | ④ 0.5 | ⑤ 0.7 | ⑥ 0.9 |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|

(2) 変量 x, y の値の組

$$(-1, -1), (-1, 1), (1, -1), (1, 1)$$

をデータ W とする. データ W の x と y の相関係数は 0 である. データ W に, 新たに 1 個の値の組を加えたときの相関係数について調べる. なお, 必要に応じて, 後に示す表 1 の計算表を用いて考えてもよい.

a を実数とする. データ W に $(5a, 5a)$ を加えたデータを W' とする. W' の x の平均値 \bar{x} は , W' の x は y の共分散 s_{xy} は となる. ただし, x と y の共分散とは, x の偏差と y の偏差の積の平均値である.

W' の x と y の標準偏差を, それぞれ s_x, s_y とする. 積 $s_x s_y$ は となる. また相関係数が 0.95 以上となるための必要十分条件は $s_{xy} \geq 0.95 s_x s_y$ である. これより, 相関係数が 0.95 以上となるような a の値の範囲は である.

表1 計算表

| x | y | $x - \bar{x}$ | $y - \bar{y}$ | $(x - \bar{y})(x - \bar{y})$ |
|------|------|---------------|---------------|------------------------------|
| -1 | -1 | | | |
| -1 | 1 | | | |
| 1 | -1 | | | |
| 1 | 1 | | | |
| $5a$ | $5a$ | | | |

ケの解答群

- ① 0 ② $5a$ ③ $5a + 4$ ④ a ⑤ $a + \frac{4}{5}$

コの解答群

- ① $4a^2$ ② $4a^2 + \frac{4}{5}$ ③ $4a^2 + \frac{4}{5}a$ ④ $5a^2$ ⑤ $20a^2$

サの解答群

- ① $4a^2 + \frac{16}{5}a + \frac{4}{5}$ ② $4a^2 + 1$
 ③ $4a^2 + \frac{4}{5}a$ ④ $2a^2 + \frac{2}{5}$

シの解答群

- ① $-\frac{\sqrt{95}}{4} \leq a \leq \frac{\sqrt{95}}{4}$ ② $a \leq -\frac{\sqrt{95}}{4}, \frac{\sqrt{95}}{4} \leq a$
 ③ $-\frac{\sqrt{95}}{5} \leq a \leq \frac{\sqrt{95}}{5}$ ④ $a \leq -\frac{\sqrt{95}}{5}, \frac{\sqrt{95}}{5} \leq a$
 ⑤ $-\frac{2\sqrt{19}}{5} \leq a \leq \frac{2\sqrt{19}}{5}$ ⑥ $a \leq -\frac{2\sqrt{19}}{5}, \frac{2\sqrt{19}}{5} \leq a$

(23 共通テスト 追・再試験 I 4[2])

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ク | ケ | コ | サ | シ |
| 2 | 3 | 0 | 2 | 3 |

【解答】

(1) 相関係数の値は -1 と 1 の間にある。データ Z' の散布図ではデータが点 $(5, 5)$ に集中しているから、選択肢として当てはまる値は **0.0** である。 (2) ……(答)

(2) W' の x の平均値 \bar{x} は

$$\bar{x} = \frac{-1 - 1 + 1 + 1 + 5a}{5} = a \quad (3) \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。同じく W' の x の平均値 \bar{y} は

$$\bar{y} = \frac{-1+1-1+1+5a}{5} = a$$

であり、計算表は次のようになる。

| x | y | $x - \bar{x}$ | $y - \bar{y}$ | $(x - \bar{y})(x - \bar{y})$ |
|-----|-----|---------------|---------------|------------------------------|
| -1 | -1 | -1 - a | -1 - a | (1 + a) ² |
| -1 | 1 | -1 - a | 1 - a | a ² - 1 |
| 1 | -1 | 1 - a | -1 - a | a ² - 1 |
| 1 | 1 | 1 - a | 1 - a | (1 - a) ² |
| 5a | 5a | 4a | 4a | 16a ² |

W' の x と y の共分散 s_{xy} は

$$\begin{aligned} s_{xy} &= (x \text{ の偏差と } y \text{ の偏差の積の平均値}) \\ &= \frac{(1+a)^2 + 2(a^2-1) + (1-a)^2 + 16a^2}{5} \\ &= \frac{20a^2}{5} \\ &= 4a^2 \quad (\textcircled{0}) \end{aligned}$$

……(答)

となる。

W' の x の標準偏差 s_x は

$$s_x^2 = \frac{2(-1-a)^2 + 2(1-a)^2 + (4a)^2}{5} = \frac{20a^2 + 4}{5} = 4a^2 + \frac{4}{5}$$

同じく、 W' の y の標準偏差 s_y は

$$s_y^2 = 4a^2 + \frac{4}{5}$$

であり、積 $s_x s_y$ は

$$s_x s_y = \sqrt{4a^2 + \frac{4}{5}} \sqrt{4a^2 + \frac{4}{5}} = 4a^2 + \frac{4}{5} \quad (\textcircled{2})$$

……(答)

となる。

また、相関係数 $\frac{s_{xy}}{s_x s_y}$ が 0.95 以上となるための必要十分条件は

$$\frac{s_{xy}}{s_x s_y} \geq 0.95 \quad \therefore s_{xy} \geq 0.95 s_x s_y$$

であるから、 a の値の範囲は

$$\begin{aligned} 4a^2 &\geq 0.95 \left(4a^2 + \frac{4}{5} \right) \\ (1 - 0.95)a^2 &\geq 0.95 \times \frac{1}{5} \\ 5a^2 &\geq 19 \\ \therefore a &\leq -\frac{\sqrt{95}}{5}, \frac{\sqrt{95}}{5} \leq a \quad (\textcircled{3}) \end{aligned}$$

……(答)

である。